

次の英文を読み、設問に答えなさい。(高3 S A 2002年 一橋・前期)

Peter Unger, a philosopher, tells us the following parable. Bob is close to retirement. He has invested most of his savings in a very rare and valuable old car, a Bugatti, which he has not been able to insure*. The Bugatti is his pride and joy. In addition to the pleasure he gets from driving and caring for his car, Bob knows that its rising market value means that he will always be able to sell it and live comfortably after retirement. One day when Bob is out for a drive, he parks the Bugatti near the end of a railway siding* and goes for a walk up the track. As he does so, he sees that a runaway train, with no one aboard, is running down the railway track. Looking farther down the track, he sees the small figure of a child very likely to be killed by the runaway train. He can't stop the train and the child is too far away to warn of the danger, but he can throw a switch that will send the train down the siding where his Bugatti is parked. Then nobody will be killed — but the train will destroy his Bugatti. Thinking of his joy in owning the car and the financial security it represents, Bob decides not to throw the switch. The child is killed. For many years to come, Bob enjoys owning his Bugatti and the financial security it represents.

Bob's conduct, most of us will immediately respond, was seriously wrong. Unger agrees. But then he reminds us that we too have opportunities to save the lives of children. We can give to organizations like UNICEF or Oxfam. How much would we have to give one of these organizations to have a high probability of saving the life of a child threatened by easily preventable diseases? (I do not believe that children are more worth saving than adults, (1) but since no one can argue that children have brought their poverty on themselves, focusing on them simplifies the issues.) Unger called up some experts and used the information they provided to offer some realistic estimates that include the cost of raising money, administrative expenses, and the cost of delivering aid where it is most needed. By his calculation, a gift of two hundred dollars would help a sick two-year-old transform into a healthy six-year-old — offering safe passage through childhood's most dangerous years. But how many would donate such an amount of money to the organizations? We seem to lack a sound basis for drawing a clear moral line between Bob's situation and that of any reader with two hundred dollars to spare who does not donate it to an overseas aid agency.

Now, evolutionary psychologists tell us that human nature just isn't sufficiently good to make it likely that many people will sacrifice so much for strangers. On the facts of human nature, they might be right, but they would be wrong (2) to draw a moral conclusion from those facts. If it is the case that we ought to do things that, predictably, most of us won't do, then let's face that fact directly. Then, if we value the life of a child more than going to fancy restaurants, the next time we dine out we will know that we could have done something better with our money. If that makes living a morally decent life extremely difficult, well, then (3) that is the way things are. If we don't do it, then we should at least know that we are failing to live a morally decent life — not because it is good to indulge in guilt but because (4) knowing where we should be going is the first step toward heading in that direction.

When Bob first grasped the dilemma that faced him as he stood by that railway switch, he must have thought how extraordinarily unlucky he was to be placed in a situation in which he must choose between the life of an innocent child and the sacrifice of most of his savings. But he was not unlucky at all. We are all in that situation.

(注) insure: 保険をかける siding: 側線, 退避線

1. 下線部(1)を和訳しなさい。
2. 下線部(2)の意味内容は、どのような事実からどのような結論を引き出すことか。60字以内の日本語(句読点を含む)で、具体的に説明しなさい。
3. 下線部(3)の具体的な意味内容を40字以内の日本語(句読点を含む)で説明しなさい。
4. 下線部(4)を和訳しなさい。
5. Bobのたとえ話を用いながら筆者は何を伝えようとしているか。150字以内の日本語(句読点を含む)で説明しなさい。

※高3 S Aレベルの 28 で取り上げた、同年度の第1問と異なり、こちらは本格的な記述問題である。最近の一橋大は、以前のように小説・物語そのものを出题することはほとんどないが、登場人物の心理描写が絡むことが多い点では東大の第5問と共通する。英語の本文自体の難易度は各大学とも年度によって異なるので単純な比較はできないが、設問を含めて考えると相当に手強い。易しいと言える設問はなく、問5は指定の字数からして実質的に要約問題に近いが、極力具体例を省いていく東大第1問の内容要約問題とは異なる解答法が求められる。試験時間に余裕がある分、質の高い正確な解答が要求されることになり、高次元の争いになると考えてよい。その意味では、一見難解でも出題パターンが固定していて対策の立てやすい京都大学を含めて、一橋大学の英語が現在、最もレベルが高いと言っても過言ではないだろう。

なお、この3年間は指定字数の減少傾向があり(最大100字、昨年は80字)、特定の箇所を拾って答えられる設問が増えているとはいえ、2008年度の予測は立てにくい。自由英作文、リスニングを含めて、他の設問で確実に得点できれば別だが、通常、字数が多くなれば配点も高くなるので、100字程度は覚悟しておいたほうが無難である。2003年度以降は現在入手可能な赤本で「一応」カバーできるので、あえて2002年度の問題をもう一度取り上げた。

【設問解答例】

1. 全訳下線部参照 [別解答例] しかし、子供たちが貧しいのは彼ら自身のせいだとは言えないのだから、子供たちを中心に考えると、問題がわかりやすくなる。
2. 人間は他人のために大きな犠牲を払わないという事実から、人間の本性は善良ではないという道徳的な結論を引き出すこと。(56字)
他人のために大きな犠牲は払う人間は多くないという事実から、人間の本性は善良ではないという道徳的な結論を引き出すこと。(58字)
3. 道徳的に正しい生活を送ることが極めて難しいとしても、それが現実だということ。(38字)
4. 全訳下線部参照
5. 子供の命を救うか自分の財産を守るかという選択を迫られたボブが不運だったのではなく、私たちの誰もが、貧しい国の子供たちの命を救うためにはある程度自分の生活を犠牲にしなければならないという、ボブと似た立場にある。私たちは少なくとも道徳的に正しい生活を送っていないことを自覚するべきである。(142字)

【解説】

- ・ 1. 主節を「子供たちに焦点を合わせることは問題を単純にする」と直訳して減点なしというのは、このレベルの大学ではあり得ないだろう。ただし、正しい構文把握が前提であることは言うまでもない。
- ・ 2. those facts である以上、前に述べられている事実を指していることになるが、具体的に複数の事実が挙げられているわけではない。facts と複数形になった理由は On the facts of human nature, を受けているからだが、一方 a moral conclusion であって the moral conclusion ではないために、conclusion の内容はまだ述べられていないようにも取れるが、下線部以下に該当する記述はない。but they would be wrong to draw a moral conclusion from those facts. は仮定法表現であり (they are wrong であれば、to draw ... は「判断の根拠」だが、would be wrong なので、to draw ... は if they drew ... に相当する)、一般論として a moral conclusion と不定冠詞を用いているが、具体的内容はあくまでも下線部の前に述べられていることである。このあたりを正確に読み取るには相当な力があるが、文脈把握力でカバーできればそれでよい。
- ・ 3. that が if 節の内容を受けていることは見抜けるはずである。その if 節の主語 that も前の文の内容を受けているが、そこまで広げていくと40字ではとても納まらない。やはり指定の字数が拾うべき箇所のヒントになる。that is the way things are. を直訳すれば「それが物事[状況]の有り様(よう)である」となるが、その真意を文脈から読み取るのだからレベルは極めて高い。If that makes living of If は If と Even if の中間だが、やや Even if 寄りである。なお下線部の後の If we don't do it, は二つ前のセンテンスの we could have done something better with our money という仮定法表現の内容を直接法で言い換えたものであり、If we don't do it = If we don't do something better with our money であるが、このことは次の下線部(4)の内容を正確に理解する上で重要である。
- ・ 4. where we should be going は少々わかりにくいだが、the first step toward heading in that direction が読み取れば、where we are going → where we should be going だと理解できるはず。
- ・ 5. 150字という字数からして、具体例も取り入れていくことになるが、どこを拾うかということになると、長年出題されてきた東大の内容要約問題のような、ある程度パターン化した解法があるわけではない。したがって、最大のヒントは字数の指定を含む、設問文の記述である。本問は「Bobのたとえ話を用いながら筆者は何を伝えようとしているか。150字以内の日本語 ...」であり、言うまでもなく「筆者は何を伝えようとしているか」が最重要ポイントである。それが最後の段落に結論として述べられていることを見抜ければ、今回はこの段落の内容をまとめるだけで一応の得点は可能である。そこに各段落の内容を補足してまとめていけば合格点に達するはずである。

【全訳】哲学者のピーター・アンガーは、次のような例え話をしている。ボブは定年間近かである。彼は蓄えのほとんどを、たいへんに希少価値の高いクラシックカー、ブガッティに投資した。この車に彼はまだ保険をかけられないでいる。ブガッティは彼の誇りであり、喜びである。この車を運転し、手入れをする楽しみに加え、ブガッティの市場価値が上がっているということは、いつでもそれを売って、退職後に安楽な生活を送れることを意味しているのだとボブはわかっている。ある日、ボブはドライブに出かけると、ブガッティを鉄道の退避線の終点近くに止めて、線路を遡(さかのぼ)って歩いていく。歩いていると、無人の暴走列車がこちらに向かって線路を走ってくるのが見える。反対方向の線路の先の方を見ると、きっとその暴走列車にひかれて死んでしまうにちがいない一人の子供の小さな婆が見える。彼には列車を止めることはできないし、子供のいるところまでは距離がありすぎて危険を知らせることもできない。しかし、線路のポイントを切り換えて、暴走列車を彼のブガッティが止めてある退避線へ送り込むことはできる。そうすれば誰も死なずにすむだろう。ただし、列車はブガッティを潰してしまうだろう。ブガッティを所有している喜びと、ブガッティが象徴する金銭的な保証を考えて、ボブはポイントを切り換えないことにする。子供は死んでしまう。その後何年も、ボブはブガッティを持つ喜びと、その車が象徴する金銭的な保証を享受する。

ボブの行為はひどく間違っていた、と私たちの大多数が即座に答えるだろう。アンガーも同意する。しかし、次いで彼は、私たちにも幼い子供たちの命を救う機会があることを思い出させる。ユニセフやオクスファムのような団体へ寄付することができるのだ。容易に防げる病気に脅かされている1人の子供の命を救う高い可能性を手に入れるためには[手に入れようとするならば]、私たちはこうした組織のひとつにどれくらいのお金を寄付しなければならぬのだろうか。(私は、大人よりも子供のほうが救う価値があるとは思わないが、(1)しかし、子供たちが自分で自分の貧困を招いたとは誰も主張できない以上、子供たちに焦点を合わせることで、問題がわかりやすくなる。)アンガーは、何人かの専門家に電話し、彼らが提供してくれた情報を用いて、募金にかかる費用、管理費、最も必要としているところに援助を届ける費用を含む現実的な見積もりを出した。彼の計算によると、200ドル寄付すれば、1人の病気の2歳児を健康な6歳児に変えることになるだろう、つまり幼少時の最も危険な年月を無事に通過させることになるだろう。しかし、そうした団体にこのような金額を寄付する人がどれだけいるだろうか。私たちは、ボブが置かれた状況と、誰であれ、200ドルの余裕がありながら、それを海外の援助機関に寄付しない読者が置かれている状況の間に、明確な道徳的一線を引くための妥当な根拠を欠いているように思われる。

ところで、進化論的な心理学者たちは、人間の本性は、多くの人たちが見ず知らずの人間のためにそんなに多くの犠牲を払うことを見込めるほど善良なものではないと言う。人間の本性という事実に関しては彼らの言うことは正しいかもしれないが、しかし、(2)そうした事実から道徳的な結論を引き出すとしたら、誤りを犯すことになるだろう。おそらく私たちの大多数がやらないであろうことを、私たちはやるべきであるというのが実情であるとするならば、その事実を直視しよう。さらには、1人の子供の命のほうが高級なレストランに行くことよりも価値があると考えれば、次に外食するとき、もっと良いお金の遣い道があったことに気づくだろう。そのために道徳的に正しい生活を送ることが極めて困難になるとしても、そう、(3)それが現実なのである[現実(の状況)とはそういうものなのである]。自分のお金でもっと良いことをしないのであれば、私たちは少なくとも、道徳的に正しい生活を送っていないことを認識すべきである。罪の意識に浸(ひた)ることがよいことだからではなく、(4)どこへ向かう[行く]べきかを知ることが、その方向に進むための第一歩であるからだ。

あの鉄道のポイントの傍らに立って、自分が直面するジレンマにボブが初めて気づいたとき、罪のない子供の命を奪うか、自分の貯金のほとんどを犠牲にするか、そのどちらかを選択しなければならない状況に置かれるとは、自分はなんと人並みはずれて運が悪いのだろう、と彼は思ったにちがいない。しかし、彼は少しも運が悪くなどなかった。私たち全員がそうした状況に置かれているのだ。

次の英文を読み、設問に答えなさい。解答は日本語で書きなさい。(高3 S A)

The benefits which would flow from the existence of a global language are considerable, but some commentators have pointed to possible risks. Perhaps a global language will hasten the disappearance of minority languages, or — the ultimate threat — make all other languages unnecessary. That would of course place at risk those minorities who speak them.

Will the emergence of a global language hasten the disappearance of minority languages and cause widespread language death? To answer this question, we must first establish (a) a general perspective. The process of language conquest and loss has been known throughout language history, and exists independently of the emergence of a global language. No one knows how many languages have died since humans became able to speak, but there must be thousands. In many of these cases, the death has been caused by an ethnic group coming to be absorbed within a more dominant society, and adopting its language along with its other social practices. The situation continues today, though the matter is being discussed with increasing urgency because of the unprecedented rate at which native languages are being lost, especially in North America, Brazil, Australia, Indonesia and parts of Africa. Some estimates suggest that perhaps 80 per cent of the world's 6,000 or so living languages will die out within the next century.

The emergence of any one language as global, however, has little to do with this unhappy state of affairs. Recently, the emergence of English as a truly global language has, if anything, had (b) the reverse effect — stimulating a stronger response in support of a local language than might otherwise have been the case. Movements for language rights, alongside civil rights in general, have played an important role in several countries: the Maori language in New Zealand, the aboriginal languages of Australia, the Native American languages of Canada and the USA, and some of the Celtic languages. Although often too late, in certain instances the decline of a language has been slowed, and occasionally halted.

The existence of vigorous movements in support of language minorities, commonly associated with nationalism, illustrates an important truth about the nature of language in general. The need for mutual understanding, which is part of the argument in favor of a global language, is only one side of the story. The other side is the need for identity, and people tend to underestimate the role of identity when they express anxieties about language injury and death. Language is a major means of showing where we belong, and of distinguishing one social group from another.

Arguments about the need for national or cultural identity are often seen as being opposed to those about the need for mutual understanding. But this is misleading. It is perfectly possible to develop a situation in which understanding and identity happily co-exist. This situation is the familiar one of bilingualism, but it is a bilingualism where one of the speaker's two languages is a global language, providing access to the world community. The two functions can be seen as complementary, responding to (c) different needs. And it is because the functions are so different that a world of language variety can continue to exist in a world united by a common language.

(d) None of this is to deny that the development of a global language can influence the structure and most assuredly the vocabulary of other languages. A global language provides, for example, a fresh source of borrowed words for use by these other languages. Such influences can be welcomed, in which case, people talk about their language being "varied" or "enriched," or opposed, in which case, the metaphors are those of "injury" or "death." For example, in

recent years, one of the healthiest languages, French, has tried to protect itself by law against what is widely perceived to be the malignant influence of English. In official contexts, it is now illegal to use an English word where a French word already exists, even though the usage may have widespread popular support: *computer* for *ordinateur*. Patriotic speakers from several other countries have also expressed concern with the way in which English vocabulary, especially that of American English, has come to be used on their streets and on their TV programs.

The arguments are carried on with great emotional force. Even though only a tiny part of the vocabulary is ever affected in this way, that is enough to arouse the anger of the patriotic speakers. They often forget that English itself, over the centuries, has borrowed thousands of words from other languages, and constructed thousands more from the elements of other languages — including *computer*, incidentally, which derives from Latin, the mother language of French. Few languages are as "pure" or uncorrupted by foreign words as their defenders believe. (2003年 東京外国語・前期)

1. 下線部(a)の "a general perspective" とはどのようなことか。50字以内で書きなさい。(20点)
2. 下線部(b)の "the reverse effect" とはどのようなことか。50字以内で書きなさい。(20点)
3. 下線部(c)の "different needs" とはどのようなことか。40字以内で書きなさい。(20点)
4. 下線部(d)を分かりやすい日本語で言い換えなさい。(20点)
5. 文章中、2度使われる *computer* という語はどのような歴史上の皮肉を表しているか。60字以内で書きなさい。(20点)

※かつての十八番とも言える東京外語の問題を「英語長文読解問題」で初めて取り上げる。センター試験の科目が少なく二次試験は英語だけ、しかも配点も二次の方が圧倒的に高かった時代、そして一次と二次の配点は逆転したものの、やはり二次は英語だけだった時代に比べると、英語の占める比重が相対的に低下したことは否定できない。かつては英語さえ抜群に出来れば、他科目はそこそこでも十分に合格可能であった。事実「阿佐谷英語塾」を独立・開設する前の英語専門塾では、センターリサーチの涙マークから英語学科への逆転合格や、センター試験の借金を跳ね返しての全学科中トップ合格(アラビア語学科)といったことも可能だったわけである。

今後も科目や配点の変更(英語の試験自体の大問の配点を含む)があり得るので要注意。とはいえ、現在でも、他大学に比べれば、英語が物を言う(英語で合否が決まる)可能性が高いことに変わりはない。仮に配点や多少の出題形式の変更があったとしても、東京外語の英語の特徴は、読み・書き・聞くの総合力が試され、また最も配点の高い読解問題は記述式と選択式がバランスよく出題されることに変わりはないだろう。今回は配点の高い記述式読解問題を取り上げた。

本問はけっして難問ではなく、文脈を追って下線部に相当する箇所を押さえていけば高得点も可能であるが、相当な英語力がないと正解に達しない設問もある。常識や想像力は常に読解力の支えになるが、一定レベルの文法・構文の知識と単語力が前提であることを忘れずに、多様な英文の内容を正確に読む演習を重ねてほしい。

【設問解答例】

1. 言語が征服されて失われる過程は言語の歴史を通じて知られ、国際言語の出現と無関係に生じていること。(48字)
2. 英語が国際言語にならなかった場合よりも、地域言語を支持するより強力な運動が行なわれていること。(47字)
3. 国家的あるいは文化的なアイデンティティ[独自性]の必要性和、国際的な相互理解の必要性。(38字[33字])
4. 共通の言語によって統一された世界でも、多様な言語の存続が可能であるにもかかわらず、国際言語が発達すれば、他の言語の構造に、そして間違いなくその語彙に、影響を与えることになるだろう。
5. 英語であるためにフランスでは使用禁止のこの語は、元々、フランス語の母体であるラテン語から英語に取り入れたものである。(58字)

【解説】

- ・ 1. 下線部直後のセンテンスの内容がそのまま答えになる。
- ・ 2. 下線部直後のダッシュ以下の内容がそのまま答えになるが、この箇所は構文的に分かりにくい。— stimulating a stronger response in support of a local language than might otherwise have been the case の — (ダッシュ) を説明の便宜上、カンマに置き換えてみれば、and (it) has stimulated a stronger response in support of a local language than might otherwise have been the case に相当する分詞構文と解することができる。問題は than 以下だが、上記の書き換えによって、過去ではなく「現在完了」当たる「假定法過去完了」であることがわかるはずだ。a stronger response ... than ... は比較の表現であることに変わりはないが、than の後に主語がないということは、than が主語の働きを兼ねる、いわゆる擬似関係代名詞だということになるが、私自身、こういう文は久しく目にすることはなかったのだから、ほとんどの受験生が理解不能だろう。
- ・ ただし There is more food than is needed [than we need]. なら知っているはずだ。than が主語 [あるいは目的語] の働きをしていると疑似関係代名詞だと説明されている。実際には There is more food than much food is needed [than we need much food]. という比較表現特有の消去の結果であるが、詳しくは「重要英語文法事項の解説」の「関係代名詞」の項と「英文和訳演習(英語下線部和訳) 2」を参照してほしい。本文の場合にも同じ考え方を適用すると a stronger response ... than a strong response might otherwise have been the case ということになり、一見、文は成り立つように見えるが、文意はいまひとつ分かりにくい。この the case は(難関大学受験生には必須の語彙だが)「事実、実情、真相」の意味だからである。では他にどういう解釈があり得るのか。
- ・ ここで前文または後文の内容を先行詞とする非限定用法の as を思い出してほしい。As is often the case with him, he was late for class. あるいは He was late for class, as is often the case with him. といった例ならば、ほとんどの人が知っているはずだ。この as は元々は副詞節を導く接続詞(いわゆる様態の as) だが、文の内容を受ける it が消去されているので、as が接続詞と代名詞の働きを兼ねることになる。この後者の例文を He was late for class, which is often the case with him. としても意味上それほど大きな違いはない。この which が接続詞 and と前文の内容を受ける主語 it の働きを兼ねる、非限定用法の関係代名詞であることが分からない人はまずいなさう。
- ・ 実は本文の than もこの as に近い働きをしているのだが、than は as を含む他の接続詞と違って前にカンマを打つことも、主節の前に置かれることもないが、次のように考えることは可能である。
has stimulated a strong response ..., which has been the case 「強い反応を促してきたが、それが実情であった」
→ has stimulated a stronger response ... than might otherwise have been the case 「さもなければ、それが実情であったかもしれない(場合)以上に強い反応を促してきた」(直訳) という変形である。つまり than がその働きを兼ねている、つまり消去されている主語は a strong response ではなく、前の文の内容を受ける

it だということになる。

- ・なお otherwise 「さもなければ」の具体的な内容は the emergence of English as a truly global language → if English had not emerged as a truly global language である。実は、これがニュアンス的に纏めて the case の意味を知っていれば、下線部和訳問題ではないので、than の解釈は曖昧でも設問に答えることはできる。文脈を読む力で文法・構文の知識をカバーするわけである。
- ・3. different needs は実質的に two different needs であるが、この設問は下線部のある段落の始めから内容を追っていかないと答えられないので、他の設問よりも処理に時間がかかり、難度が高い。
- ・下線部前のセンテンス but it is a bilingualism where one of the speaker's two languages is a global language, providing access to the world community. の it=the bilingualism (つまり直前の bilingualism を受けるもの) であり、where 以下は a bilingualism を先行詞とする関係副詞節である。このように、関係副詞 where の先行詞は狭義の「場所」とは限らない。[この項補足]
- ・また下線部後の And 以下 it is because the functions are so different that a world of language variety can continue to exist in a world united by a common language. は it is 副詞節 that ... のいわゆる強調構文 [分裂文] であり、so 形容詞 (or 副詞) that ... という相関構文ではない。
- ・4. 実際には下線部和訳問題だが、「分かりやすい日本語で言い換えなさい」とあるので、None of this の内容を明らかにすると同時に、直訳調の日本語を避けることになる。ただし構文を取り違えた作文では正解にならない。this はもちろん前文の内容であり、None of が付いても this のままである。these となるのは these+複数形名詞の省略の場合である。this が受けているのは直前の that 以下 a world of language variety can continue to exist in a world united by a common language の内容である。None of this is to deny that ... は This is not to deny that ... の強意表現に相当すると考えてよいだろう。is to deny をいわゆる「be+to 不定詞」の用法と取るのは論外である。
- ・5. 二つの段落に跨がってはいるが、それぞれの段落の内容は分かりやすいので、ポイントは60字以内にまとめる日本語の表現力。

【全訳】世界言語が存在すると生じることになる利益は相当なものであるが、しかし危険の可能性を指摘する論者もいる。おそらく、世界言語は少数派の言語の消滅を加速するか、あるいは----これが究極の脅威であるが----他のすべての言語を不要にしてしまうだろう。そうなればもちろん、そうした言語を話す少数派の人々は危険な立場に置かれることになるだろう。

世界言語の出現は少数派言語の消滅を速め、そして広範囲に及ぶ言語の死をもたらすだろうか。この質問に答えるためには、まず(a)全体的な視野を確立する必要がある。言語の征服と喪失の過程は、言語の歴史全体を通じて経験されてきたし、現在も世界言語の出現とは関係なく存在している。人間が言葉を話せるようになって以来、どれほど多くの言語が死に絶えたかは誰にも分からないが、数千に及ぶにちがいない。こうした場合の多くにおいて、ある民族集団がより優勢な社会に吸収されることになり、そして他の社会的慣習と共にその言語も取り入れることで、こうした死が引き起こされてきた。そうした状況は今日も続いている。もっとも、この問題はますます緊急の度合を増して論じられてはいるが、その理由は、前例のない速さで土着の言語が、特に北米、ブラジル、オーストラリア、インドネシア、そしてアフリカの各地で失われているからである。おそらく世界で現在使用されている6,000ほどの言語の80パーセントほどが、来世紀中に死に絶えると示唆する見積もりもある。

しかし、どんな言語であれ、一つの言語が世界言語として出現することは、この不幸な事態とはほとんど関係がない。最近、本当に世界言語としての英語の出現は、どちらかという、(b)逆の効果をもたらしている。英語の出現がなかったと仮定した場合よりも、地域言語を支持する、より強力な反応を促して[刺激して]いるのである。公民権一般と並んで、言語の権利を求める運動は、いくつかの国々で重要な役割を果

たしてきた。ニュージーランドのマオリ語、オーストラリアの原住民アボリジニの諸言語、カナダと合衆国のアメリカ先住民の諸言語、そしてケルト語の一部がそうである。しばしば遅きに失しているとはいえ、言語の衰退の速度が遅くなった例もあり、またときには食い止められている。

少数派の言語を支持する活発な運動の存在は、一般に国家主義（ナショナリズム）と結びついていて、言語一般の性質に関する重要な真実を明らかにしている。相互理解の必要性は、世界言語を支持する主張〔論拠〕の一部であるが、この物語の一方の側面にすぎない。もう一方の側面はアイデンティティの必要性である。人々が言語の損傷や死に関する懸念を表明するとき、アイデンティティの役割を過小評価する傾向がある。言語は、自分がどこに属しているかを示し、そしてある社会的集団を別の集団と区別する主要な手段なのである。

国家的あるいはまたは文化的なアイデンティティの必要性に関する主張は、しばしば、相互理解の必要性に関する主張と対立するものと見なされている。しかし、これは誤解である。理解とアイデンティティが幸せに共存する状況を生み出すことは完全に可能である。こうした状況は、二言語併用（バイリンガリズム）というよく知られた状況だが、この場合の二言語使用は、話し手が用いる二つの言語のうちの一つが世界言語であって、世界共同体〔国際社会〕へのアクセスを提供している、二言語使用のことである。（理解とアイデンティティという）この二つの役割は補完的なものであり、(c)異なる必要に対応していると見なすことができる。そして二つの言語の役割が著しく違っているからこそ、一つの共通言語によって統一された世界でも、多様な言語の世界が存在し続けることが可能なのである。

(d)このことは少しも、世界言語〔世界共通語〕の発達が他の言語の構造と、そして最も確実にその語彙に、影響を与える可能性があることを否定するものではない。たとえば、世界言語は、そうした他の言語で使われる借用語の新しい供給源となる。このような影響は歓迎されることもあり、その場合、人々は自分たちの言語が「多彩」になっているとか「豊かに」になっていると言い、あるいは反対されることもあり、その場合には、「損傷」とか「死」という比喩が用いられる。〔その場合、比喩は「損傷」とか「死」という比喩である。〕たとえば、近年、最も健全な言語のひとつであるフランス語は、英語の有害な影響であると広く理解されているものから、法律で自分を守ろうとしてきた。公式な文章では、フランス語の単語がすでに存在しているのに英語の単語を使うことは、たとえその用法が広く一般の支持を得ているとしても、現在は違法である。例えば *ordinateur* の代わりに *computer* を用いることである。他の数カ国の愛国的な言語の話し手も、英語の語彙、特にアメリカ英語の語彙が自国の街頭やテレビ番組で使われるようになってきている様子に懸念を表明している。

議論は著しく感情的に行なわれている。たとえ語彙のほんのわずかな部分しかこのような影響を受けていないにしても、愛国的な話し手の怒りをかき立てるにはそれで十分である。彼らがしばしば忘れてのことだが、英語自体が、何世紀にも渡り、他の言語から数千もの単語を借りてきて、そして他の言語の要素からさらに数千もの単語を組み立ててきたのである―――ついであるが、フランス語の母体となった言語であるラテン語から派生した *computer* もその中に含まれている。言語を守ろうとする者たちが信じているほど「純粋な」、あるいは外国語の単語によって墮落させられていない言語など、ほとんどないのである。

次の英文を読み、設問に答えなさい。(高3 S A 岡山・前期)

(1) Around the world people are choosing to have fewer and fewer children — not just in China, where the government forces it on them, but in almost every nation outside the poorest parts of Africa. Population growth rates are lower than they have been at any time since the Second World War. In the past three decades the average woman in the developing world, excluding China, has gone from bearing six children to bearing four. Even in Bangladesh the average has fallen from six to fewer than four; even in Iran it has dropped by four children. If this keeps up, the population of the world will not quite double again; United Nations analysts offer as their mid-range projection that it will top out at 10 to 11 billion, up from just under six billion at the moment. The world is still growing, at nearly a record pace — we add a New York City every month, almost a Mexico every year, almost an India every decade. But the rate of growth is slowing; it is no longer “unstoppable” or “unchecked.” (2) If current trends hold, the world’s population will all but stop growing before the twenty-first century is out.

And that will be none too soon. There is no way we could keep going as we have been. The *increase* in human population in the 1990s has exceeded the *total* population in 1600. The population has grown more since 1950 than it did during the previous four million years. (3) The reasons for our recent rapid growth are pretty clear. Although the Industrial Revolution speeded historical growth rates considerably, it was really the public-health revolution, and its spread to the Third World at the end of the Second World War, that set us galloping. Vaccines and antibiotics came all at once, and right behind came population. In Sri Lanka in the late 1940s life expectancy was rising at least a year every twelve months. (4) How much difference did this make? Consider the United States: if people died throughout this century at the same rate as they did at its beginning, America’s population would be 140 million, not 270 million.

If it is relatively easy to explain why populations grew so fast after the Second World War, it is much harder to explain why the growth is now slowing. (5) Experts confidently supply answers, some of them contradictory: “Development is the best contraceptive” — or education, or the empowerment of women, or hard times that force families to postpone having children. For each example there is a counterexample. Ninety-seven percent of women in Oman know about contraception, and yet they average more than six children each. Turks have used contraception at about the same rate as the Japanese, but their birth rate is twice as high. And so on. (6) It is not AIDS that will slow population growth, except in a few African countries. It is not horrors like the civil war in Rwanda, which claimed half a million lives — a loss the planet can make up for in two days. All that matters is how often individual men and women decide that they want to reproduce.

(注) top out: 頂点に達する
antibiotic: 抗生物質
empowerment: 力をつけること

vaccine: ワクチン
contraceptive: 避妊薬 (用具)
counterexample: 反例

- A 下線部(1)を日本語に訳しなさい。
- B 下線部(2)を日本語に訳しなさい。
- C 下線部(3)の理由は何であると述べているか。2行程度の日本語で答えなさい。
- D 下線部(4)をアメリカの場合について、具体的に、2行程度の日本語で答えなさい。

E 下線部(5)は具体的にどのようなことを述べているのか。3行程度の日本語で答えなさい。

F 下線部(6)を日本語に訳しなさい。

※32の東京外語の問題に比べると、かなり短めだが、本問のパッセージの長さはかつては標準ベル(以上)だった。設問はオーソドックスな国公立型である。

主題の人口問題は一貫して入試頻出テーマのひとつであり、2002年度の千葉大・前期でも出題されている。高3 SA 24 参照。その際にも触れたが、取り上げられる文章によって、一見、相反するよう思われる論述がなされていることもあるので要注意。なお本文中に出てくる this century とは20世紀のことである。

今回の岡山大学の設問の2行程度、3行程度という解答の指定は非常に曖昧だが、ただ「日本語で答えなさい」という場合に比べれば、どの部分をどれくらい拾うのか、一応の目安にはなるだろう。こういう指定がいっさいないと非常に答えにくいものである。なお、最後の下線部和訳の問題は他の設問に比してかなりの難問と言ってよい。

【設問解答例】

- A 全訳下線部参照
- B 全訳下線部参照
- C 著しく向上した公衆衛生が第二次世界大戦後、第三世界にも普及し、ワクチンや抗生物質が出現したこと。(48字)
- D 国民の死亡率が20世紀の初めと変わらなかったら、アメリカの人口は現在の半分強になっていただろう。(47字)
- E 97%が避妊の知識を持つオーマンの女性が平均6人以上の子供を産み、日本人とほぼ同じ割合で避妊をしているトルコ女性の出生率が日本人の2倍であること。(72字)
- F 全訳下線部参照

【解説】

- A 下線部(1)はせいぜい標準レベルである。it が受けているのはもちろん前の文の内容であり、the government forces it on them は the government forces them to choose to have fewer and fewer children に相当する。3行目 outside≒except
- B 下線部(2)は hold≒remain the same を知らなくても、文脈から類推できればよい。all but=almost は必須のイディオムだが、万一思い出せなければ除いて訳すのもテクニックのうち。
- C 下線部(3)は直後の2つのセンテンスの内容が答えであるが、求められているのはあくまでも our recent rapid growth の理由であり、譲歩の表現である Although 以下 the Industrial Revolution speeded historical growth rates considerably の部分は不要である。受験参考書等でこうした正確で厳密な解答にお目にかかることはめったにないが、受験生にはあくまでも正確を期す姿勢を維持してほしい。
- D 下線部(4)は直後のセンテンスの内容をまとめる。
- E 下線部(5)は contradictory に該当する具体的な例を3行程度にまとめる。
- F 下線部(6)は難問である。最初のセンテンス It is not AIDS that will slow population growth, except in a few African countries. が It is (not) 名詞 that ... のいわゆる強調構文であることは直ぐにわかるが、問題は2つ目のセンテンス It is not horrors like the civil war in Rwanda, which claimed half a million lives — a loss the planet can make up for in two days. の解釈である。強調構文で that の代わりに which や who を用いることがあるというのは標準レベルの知識だが、だからといって、この It is not horrors ..., which を強調構文と解することは出来ない。
 - ・ It is not horrors, like the civil war in Rwanda, which claimed half a million lives ... とでもなっていれば like the civil war in Rwanda は前後カンマの挿入句であり、It is not horrors which [that] claimed half a million lives ... という一見強調構文らしい形に見えるが、しかしそれでは意味が通じない。実は、この which はごく普通の非限定用法の関係代名詞である。
 - ・ It is not horrors like the civil war in Rwanda, which claimed half a million lives — a loss the planet can make up for in two days, that will slow population growth. というのが元の形で、やはり強調構文であるが、that will slow population growth は前の強調構文のセンテンスの that 以下とまったく同じであり、したがって省かれたものである。half a million lives と a loss the planet can make up for in two days は言い換えの同格表現である。この文を正確な日本語に訳すには相当な「英語+日本語」の力が要る。
 - ・ この下線部訳は「[英文和訳演習\(英語下線部和訳\) 9](#)」でも取り上げて、強調構文の that 以下の省略について触れているので参照してほしい。

【全訳】 (1) 世界中で人々は少子化を選んでいる----政府が少子化を人々「国民」に強いている中国（において）だけではなく、アフリカの最も貧しい地域以外のほとんどあらゆる国においてもそうである。人口増加率は今日、第二次世界大戦以来のいかなる時よりも低くなっている。過去30年間に、中国を除く発展途上国の平均的女性が産む子供の数は6人から4人になっている。バングラデシュでさえ平均6人から4人以下に下がり、イランでさえ4人も減少している。もしこうした傾向が続けば、世界の人口は必ずしも再び倍増することにはならないだろう。国連のアナリストは中期的な予測 [推定/見積もり] として、世界の人口は現在の60億弱から増加して100億ないし110億で頂点に達するだろうと言っている。世界は依然として、ほぼ記録的なペースで増大しつつある----毎月ニューヨーク分の人口が増え、毎年ほぼメキシコ分の人口が増え、10年毎にインド分の人口が増えているのだ。しかし、増加の割合は緩やかになっている。もはや「歯止めがきかない」とか「野放し」ということはない。(2) もし現在の傾向が続けば [変わらなければ]、世界の人口は、21世紀が終わるまでにほとんどその伸びが止まる [ほとんど増えなくなる] だろう。

そして、それが早過ぎるということはけっしてない。私たちがこれまでのように増え続けていくことはとうてい不可能だろう。1990年代の人口の増加分は1600年の総人口を上回っている。1950年以降の人口の増加は、それ以前の400万年の人口の増加を上回っている。(3) 人口が近年急速に増大した理由はきわめて明らかである。産業革命が歴史上の人口増加の速度をかなり速めはしたものの、人口の増加を急激に加速したのは、実は公衆衛生の飛躍的な向上 [革命的な進歩/大改革] と、第二次世界大戦が終わるとそうした公衆衛生の向上が第三世界に普及したことであった。ワクチンと抗生物質が同時に [一斉に] 出現し、そのすぐ後に人口が増加した。1940年代後半のスリランカでは、平均余命は毎年、少なくとも1年ずつ伸びていた。(4) このことでどれだけの違いが生じたか。合衆国について考えてみよう。もし人々が今世紀の間ずっと、今世紀の初めと同じ率で死亡したとしたら、アメリカの人口は2億7000万人ではなく1億4000万人になっていたことだろう。

人口が第二次世界大戦後これほど急速に増えた理由を説明するのは比較的容易であるとしても、その伸びがいま鈍化している理由を説明するのははるかに難しい。(5) 専門家は自信たっぷりに答えを出す、その答えの中には矛盾するものもある。「発展は最高の避妊薬である」----あるいは教育であり、あるいは女性が力をつけたことであり、あるいは家族に子供を産むのを延期させる経済的な不況である。(ところが) それぞれの例に対して反例がある。オーマンの女性の97パーセントが避妊について知っているが、しかし彼女たちは1人平均6人以上の子供を産む。トルコ人は日本人とほぼ同じ割合で避妊具を使ってきたが、彼女たちの出産率は日本人の2倍である。などなど。(6) アフリカの2、3の国を除いて、人口の増加率を減少させるのはエイズではない。(人口の増加率を減少させるのは) 50万人の命を奪ったルワンダの内戦のような恐ろしい出来事でもない。50万の命というのは地球が2日で埋め合わせのできる損失なのである。重要なのは、いかに頻繁に、個々の男女が子供を産みたい [子孫を残したい] と考えるかということだけである。

Read this passage and answer the questions below. (高3 S A)

Ours is a world in which no individual, and no country, exists in isolation. All of us live simultaneously in our own communities and in the world at large. (1) Peoples and cultures are increasingly hybrid. The same icons, whether on a movie screen or a computer screen, are recognizable from Argentina to Zimbabwe. We are all consumers in the same global economy. We are all influenced by the same tides of political, social, and technological change. Pollution, organized crime, and the proliferation of deadly weapons likewise show little regard for the niceties of borders; they are problems without passports and, as such, our common enemy. We are connected, wired, interdependent.

Such connections are nothing new. Human beings have interacted across planet Earth for centuries. But today's globalization is different. It is happening more rapidly. It is driven by new engines, such as the Internet. Globalization is bringing more choices and new opportunities for prosperity. It is making us more familiar with global diversity. (2) However, millions of people around the world experience globalization not as an agent of progress but as a disruptive force, almost hurricane-like in its ability to destroy lives, jobs, and traditions. Many have an urge to resist the process and take refuge in the illusory comforts of nationalism, fundamentalism, or other isms.

Faced with the potential good of globalization as well as its risks, we must identify areas where collective action is needed — and then take that action to safeguard the common, global interest. Local communities have fire departments, municipal services, and town councils. Nations have legislatures and judicial bodies. But in today's globalized world, the institutions and mechanisms available for global action are still in an early stage of development. (A)

What makes a community? What binds it together? For some it is faith. For others it is the defense of an idea, such as democracy. Some communities are homogeneous, others multicultural. Some are as small as schools and villages, others as large as continents. Today, of course, more and more communities are virtual, as people, even in the remotest locations on earth, discover and promote their shared values through the latest communications and information technologies.

But what binds us into an international community? In the broadest sense, there is a shared vision of a better world for all people as set out, for example, in the founding charter of the United Nations. There is (3) a sense of common vulnerability in the face of global warming and the threat posed by the spread of weapons of mass destruction. There is the framework of international law, treaties, and human rights conventions. There is equally a sense of shared opportunity, which is why we build common markets and joint institutions such as the United Nations. Together, we are stronger.

Some people say the international community is only a fiction. Others believe it is too elastic a concept to have any real meaning. Still others claim it is a mere vehicle of convenience, to be trotted out only in emergencies or when a scapegoat for inaction is needed. Some maintain there are no internationally recognized norms, goals, or fears on which to base such a community. News reports refer routinely to the "so-called international community," as if the term does not yet have the solidity of actual fact. I believe that this type of (B) is mistaken. The international community does exist. It has an address. It has achievements to its credit. And more and more, it is developing a conscience.

There are countless examples of the international community at work, from

Afghanistan and East Timor to Africa and Central America. These include international aid to victims of natural disaster, encouragement of trade between developing and developed countries, and the prosecution of people responsible for terrible crimes against humanity. (C) Too often the international community fails to do what is needed. It failed to prevent mass slaughter in Rwanda. For too long it reacted with weakness and hesitation to the horror of ethnic cleansing in the former Yugoslavia. The international community has not done enough to help Africa at a time when Africa needs it most and stands to benefit most. And in a world of unprecedented wealth, the international community allows nearly half of all humanity to live on \$2 or less a day.

For much of the 20th century, the international system was based on division and the hard calculations of political realism. In the new century, the international community can and must do better. I do not suggest that an era of complete harmony is within reach. Interests and ideas will always clash. But the world can improve on the last century's dismal record. (4) The international community is a work in progress. Many strands of cooperation have asserted themselves over the years. We must now stitch them into a strong fabric of community — of international community for an international era.

(2003年 早稲田・政経)

1 Choose the most suitable sentence or phrase from each of the groups below to explain the meaning of each underlined section from (1) to (4).

A For underlined section (1):

- (a) Mixed races are more and more conspicuous both in the movies and in reality.
- (b) People can buy whatever they want by using computers.
- (c) People can visit different cultures if they have the right visas.
- (d) Peoples from different cultures are in constant conflict today.
- (e) There is more and more mixing of different peoples and their cultures.

B For underlined section (2):

- (a) Globalization brings success to people, although they often do not know how to deal with it.
- (b) Globalization is like a hurricane since it always causes various kinds of damage.
- (c) Globalization is not an agent of progress since it only changes people's lives little by little.
- (d) Globalization means very little to most of the people in the world.
- (e) Globalization often affects people's lives in a very negative way.

C For underlined section (3):

- (a) a sense that we all believe in the United Nations
- (b) a sense that we all know what is good and what is bad
- (c) a sense that we are exposed to the same kind of danger
- (d) a sense that we have the same amount of knowledge about the world
- (e) a sense that we react in the same way to what happens in the world

D For underlined section (4):

- (a) The international community has learned from the mistakes it has made in the past.
- (b) The international community has learned nothing from the mistakes it has made in the past.
- (c) The international community is at its best right now.
- (d) The international community is still in the process of development.
- (e) The international community is working hard to create a global government.

2 Choose the most suitable sentence or word from each of the groups below to fill in each blank space from (A) to (C).

A For blank space (A):

- (a) If this is so, then we can all enjoy peace and happiness together.
- (b) It is more important to combine all legislatures into one global legislature.
- (c) Now is the time to encourage the growth of strong international bodies that can act globally.
- (d) The world should depend on each nation's individual institutions to achieve globalization.
- (e) Therefore, people should realize that it is impossible to make a truly international community.

B For blank space (B):

- (a) criticism (b) globalism (c) internationalism
- (d) optimism (e) patriotism

C For blank space (C):

- (a) Actually, it has always tried its best.
- (b) Even so, countries have been able to help themselves.
- (c) Of course, people like to travel to many different countries.
- (d) Otherwise, such examples would mean nothing.
- (e) Still, there have been too many failures.

3 According to the passage, which of the following sentences is true?

- (a) Humanitarian efforts have solved the problems of international crime but not those of poverty or environmental pollution.
- (b) Poverty drives the best and brightest people from developing countries to seek better chances elsewhere.
- (c) The development of communications systems enables people all over the world to share their interests and values.
- (d) The institutions of the United Nations have been developed to a very high level.
- (e) The international community is a fiction constructed by the United Nations.

※相当な長文であるが、構文的に分かりにくい箇所はごく一部である。難しい単語やイディオムも多少出てくるが、設問に答える上で支障となることはない。ごく常識的な背景知識と標準レベルの精読力があれば、全問正解も十分可能である。求められるのは、文脈を追える読み方と、手際よく問題を処理するスピードである。近年の早稲田の長文問題そのものと言ってよい。ただし合格ラインは高くなるだろう。

【解答】 1 A e B e C c D d 2 A c B a C e 3 c

【解説】

- 1 A. hybrid 「雑種, 混血」を知っていれば間違えようのない問題。(易)
B. agent 「要因」や disruptive 「破壊的」を知らなくも, almost hurricane-like in its ability to destroy で disruptive の意味は見当がつく。(易)
C. vulnerability は少し語彙のレベルが高いが, 下線の後の in the face of global warming and the threat posed by the spread of weapons of mass destruction が十分なヒントになる。(易)
D. 下線の後の比喩はやや分かりにくい, 紛らわしい選択肢はないので, in the process of development が a work in progress と意味的に近そうだという「見当」がつけばよい。(易)
- 2 A. 英語力というより基本的な国語力があれば答えられる。(易)
B. Aと同様。(易)
C. 同じ段落の空所以下の内容をからして, 答えに迷う余地はない。(易)
- 3 c が第四段落の後半の内容と一致している。消去法を用いれば5つの選択肢のうち3つくらいは直ぐに消せる。設問の1と2は基本的に下線部と空所の前後に目を通すだけでも解けるが, 内容真偽の設問があるときは, あまり雑な読み方(飛ばし読み, 斜め読み)をしていくと, 後でかえって時間のロスになるので注意したい。

[語句と構文の補足]

- ・ 第一段落10行目 as such 「そのようなものとして → それ自体(で)」
- ・ 第四段落 2 行目～ Some communities are homogeneous, (and) others (are) multicultural. Some are as small as schools and villages, (and) others (are) as large as continents.
- ・ 第五段落 2 行目～ there is a shared vision of a better world for all people as (it is) set out, for example, in the founding charter of the United Nations. 元々は副詞節中の「S + be動詞」の省略だが, この as に導かれる節は it is の有無に関係なく, 名詞にかかる形容詞節の働きをしている。副詞節→形容詞節は as 以外に when, before, after 等にも見られる。つまり, 前置詞+名詞が副詞句以外に形容詞句としても用いられるのと同じである。なお辞書等には, 直前の名詞を修飾すると書かれているが, 実際の用法にはそうした制限はない。
- ・ 第五段落 6 行目～ There is equally a sense of shared opportunity, which is why we build ... = There is equally a sense of shared opportunity, and it is (the reason) why we build ... つまり which の先行詞は前の文の内容。
- ・ 第六段落下から 2 行目 It has achievements to its credit. to one's credit 「自分の業績として(の)」

【全訳】 私たちの世界は, 個人も, 国家も孤立して存在してはいない世界である。私たちはみな, 自分自身の共同体の中と同時に世界全体の中で生活している。民族と文化はますます混ざり合ったものになっている。映画の画面であろうとコンピュータの画面であろうと, 同じアイコンが, アルゼンチンでもジンバブエでも認識[識別]できる。私たちはみな, 同じ世界経済の中の消費者である。私たちはみな, 政治的, 社会的, 技術的変化の同じ潮流によって影響される。公害や組織犯罪や凶器の拡散は, 同様に, 国境などという細かいものはほとんど無視している。こうした問題はパスポートの存在しない問題であり, それ自体, 私たちの共通の敵である。私たちは, 結び付き, 繋がり, 相互に依存しているのである。

こうした結び付きは決して新しいものではない。人類は何世紀もの間, 地球という惑星の至る所で相互に影響し合ってきた。しかし, 今日のグローバリゼーションはそれとは違う。グローバリゼーションはより急速に起こりつつある。インターネットのような新しい原動力によって駆り立てられている。グローバリゼーションは, より多くの選択肢と繁栄のための新しい機会をもたらしている。グローバリゼーションによって, 私たちは, 世界の多様性をよりよく知るようになっている。しかしながら, 世界中の何百万もの人々が, 進歩の要因としてではなく, 生活や仕事や伝統を破壊する能力においてほとんどハリケーンのような破壊的な力として, グローバリゼーション

ンを経験している。多くの人々が、その過程に抵抗したい衝動に駆られ、国家主義、原理主義をはじめ、様々な主義の非現実的な心地よさに逃避する。

グローバリゼーションの危険性と同様に、その潜在的な利益とも向き合っているの
で、私たちは集団的な行動が必要な分野を特定し----その後、共通の世界的な利益を
守るためにそうした集団的な行動を取らなければならない。地域社会には、消防署や
市の行政や町議会がある。国には立法府と司法横関がある。しかし、今日のグロー
バル化した世界では、世界的な活動に役立つ組織や機構は、まだ発展の初期段階にある。
今こそ、世界的な規模で活動できる強力な国際機関の発達を促進する時である。

何が共同体を形成するのだろうか。何が同体を結び付けるのだろうか。ある者にとつて
は、それは信仰である。ある者にとっては、民主主義のような理念の防衛である。共
共同体の中には、均質なものもあれば、多文化的なものもある。学校や村と同じくらい
に小さなものもあれば、大陸と同じくらいに大きなものもある。もちろん今日では、
人々が、地球上の最も遠隔の地で生活する場合でさえも、最新の通信・情報技術を通
じて共有する価値を発見し、促進するにつれて、ますます多くの共同体が仮想のもの
となっている。

しかし、何が私たちを国際的な共同体に束ねているのだろうか。最も広い意味では、
たとえば、国連創設時の憲章に述べられているような、すべての人々のためのよりよ
い世界という、共有のビジョンがある。地球の温暖化や大量破壊兵器の拡散によって
生じる脅威に直面して、共通の脆弱(ぜいじゃく)性という意識がある。国際法、条約、
人権協約という枠組がある。同様に[さらには]、共有される機会[機会の共有]という
意識があり、だから[それが理由で]、私たちは共通の市場や、国連のような共同の組
織を作るのだ。共同することによって、私たちはより強くなるのである。

国際社会というのは虚構(フィクション)にすぎないと言う人もいる。国際社会とい
うのは伸縮自在な概念すぎて現実的な意味を持たないと考える人もいる。さらには、
国際社会というのは都合の良い[便宜的な]手段にすぎず、緊急事態が発生したとき、
あるいは何もしないことに対する贖罪[不作為の代役]が必要なときにだけ引き合いに
出されると主張する者もいる。国際社会の土台となる、国際的に認められた規範、目
標、あるいは恐怖などは存在しないと主張する者もいる。ニュース報道は、まるでこ
の言葉はまだ現実に存在する事実という実体[実質性]を有してはいないかのように、
きまって「いわゆる国際社会」という言い方をする。この種の批判は間違っていると
私は思う。国際社会は現に存在する。国際社会には定まった住所がある。国際社会の
業績としての成果も挙げている。そしてますます良心を発揮している。

アフガニスタンや東ティモールからアフリカや中米に至るまで、国際社会が機能し
ている数えきれないほどの例がある。こうした例には、自然災害の被災者に対する国
際援助、発展途上国と先進国の間の貿易の促進、そして人道に反する非道な犯罪に責
任を負うべき人間の告発が含まれる。しかし、これまであまりにも多くの失敗があっ
た。国際社会が必要なことをしない場合があまりにも多い。国際社会はルワンダの
大量虐殺を防げなかった。あまりに長い間、旧ユーゴスラビアの民族浄化の恐怖に対
して軟弱でためらいがちな対応を取っていた。国際社会は、アフリカが最も援助を必要
とし、最も恩恵を得られそうなときに、アフリカを十分に援助してこなかった。そし
て国際社会は、かつてない[前例のない]豊かな世界で、全人類の半分近くが1日2ド
ル以下で生活するのを放置している。

20世紀のほとんどの間、国際的な制度は、対立[不和/分裂]と政治的現実主義の厳
しい打算に基礎を置いていた。新しい世紀には、国際社会はもっとうまくやれるし、
もっとうまくやらなければならない。私は、完全な調和の時代が手の届くところにあ
ると言おうとしているのではない。利益と理念は常に衝突する。しかし、世界は前世
紀の惨めな記録を改善できる。国際社会は、進行中の作品なのである。協力という多
くの撚(より)糸は、長年に渡り自己を主張してきた。私たちは今、その撚り糸を共
共同体という----国際時代のための国際共同体(国際社会)という----強力な織物[組織]
へと縫い上げていかなければならない。

Read the text and answer the questions that follow. (高3 S A)

My friend in Britain was recently asked by lawyers working for an American company to be a witness for a case. They wanted to fly the lead attorney and two assistants to London. "Wouldn't it be cheaper if I flew to New York?" he suggested. "Yes," he was told without hesitation, "but we can bill the client for the cost."

And there you have the American legal mind at work. I have no doubt that a large number of American lawyers do wonderfully worthwhile things that fully justify charging their clients \$150 an hour. (a) the trouble is that there are too many of them. (b), the United States has more lawyers than all the rest of the world put together: almost 800,000 of them.

(c), lawyers need work. Most states allow lawyers to advertise, and many of them enthusiastically do. You cannot watch TV without encountering a commercial showing a lawyer who might say: "Hi, I'm Vinny Slick of Bent and Oily Law Associates. If you've suffered an injury at work, or been in a traffic accident, or just feel like having some extra money, come to me and we'll find someone to sue."

Americans, as is well known, will sue (I) at the drop of a hat. In fact, I daresay someone somewhere has sued over a dropped hat, and won \$20,000 for the pain and suffering it caused. It is a sense that whenever something goes wrong for whatever reason, (II) if you are anywhere in the vicinity, then you ought to collect a pot of money.

This was neatly illustrated when a chemical plant in Richmond, California, suffered an explosion, which emitted fumes over the town. Within hours, 200 lawyers and their representatives appeared, handing out business cards and advising people to present themselves at the local hospital. Of the 20,000 seemingly very healthy people who lined up at the hospital's emergency room, just twenty were actually admitted. Although the number of proven injuries was slight, 70,000 townspeople filed claims. The company agreed a \$180 million settlement. Of this, the lawyers got \$40 million.

Every year there are over 90 million lawsuits in America — that's one for every two and a half people — and many of these are what might be called ambitious. In Washington State, (d), a man with heart problems sued the local dairies because their milk cartons did not warn him about cholesterol. (e), a woman in California was also suing the Walt Disney Company because her grandchildren suffered a shock when they happened to see Disney characters taking off their costumes in a car park at Disneyland. The discovery that Mickey Mouse was in fact a real person inside a costume was apparently too much for the small children.

That case was (III) dismissed, but elsewhere people have won (IV) fortunes out of all proportion to any pain or loss they might actually have suffered. Recently, an executive at a Milwaukee brewery told the vulgar jokes of a TV show to a female colleague, who reported him for sexual harassment. The brewery responded by firing the fellow, and he responded by suing the brewery. The fired executive was awarded \$26.6 million, roughly 400,000 times his annual salary, by a sympathetic jury.

Combined with the idea that lawsuits are a quick way to a fortune is the uniquely American notion that no matter what happens, someone else must be responsible. So if, say, you smoke eighty cigarettes a day for fifty years until (f) you get cancer, then it must be everyone else's fault but your own, and you sue not only the manufacturer of your cigarettes, but the wholesaler, the retailers, and so on. One of the most extraordinary features of the American legal system is that it allows people to sue individuals and companies

only slightly connected to the alleged complaint, and win huge sums.

It is (g) often less expensive for a company to settle out of court than to let the matter proceed to trial. I know a woman who slipped and fell while entering a department store on a rainy day and was offered an instant settlement of \$2500 if she would sign a piece of paper agreeing not to sue. She signed.

The cost of all this to society is enormous — several billion dollars a year at least. New York City alone spends \$200 million a year settling "slip and fall" claims. According to a TV documentary on this runaway legal system, because of inflated product liability costs, consumers in the U.S. pay \$500 more than they need to for every car they buy, \$300 more for heart pacemakers, and they even pay a little on top for haircuts because some distressed customers successfully sued their barbers after being given a sort of embarrassing trims that I receive (V) as a matter of routine.

All of which, naturally, has given me an idea. I'm going to go and smoke 80 cigarettes, then slip and fall while drinking high cholesterol milk, and tell the jokes of a TV show to a passing female in the Disneyland car park, and then I'll call Vinny Slick and see if we can (VI) strike a deal. I don't expect to settle for less than \$2.5 billion, and that's before we've even started talking about my latest haircut.

(2002年 慶応・法学部)

[A] Choose the most appropriate of the following answers (1-7) to fill the blank spaces marked (a-g). Each number can only be used once; initial capital letters have been ignored.

1. eventually
2. of course
3. meanwhile
4. therefore
5. in fact
6. for example
7. but

[B] (I) Choose the answer (1-4) that most appropriately indicates the meaning of the underlined phrase (I) in its context.

1. over a trivial matter
2. as soon as an opportunity arises
3. without a good reason
4. if something goes wrong

(II) Choose the answer (1-4) that most appropriately indicates the meaning of the underlined phrase (II) in its context.

1. if someone nearby is going to sue someone else
2. if you are involved even indirectly
3. if you think you are close to winning
4. if you are related to an able lawyer

(III) Choose the answer (1-4) that most appropriately indicates the meaning of the underlined word (III) in its context.

1. turned down
2. put off
3. left behind
4. laughed at

(IV) Choose the answer (1-4) that most appropriately indicates the meaning of the underlined phrase (IV) in its context.

1. painless luck
2. luckless pain
3. excessive rewards
4. rewarding excesses

(V) Choose the answer (1-4) that most appropriately indicates the meaning of the underlined phrase (V) in its context.

1. reluctantly
2. helplessly
3. repeatedly
4. safely

(VI) Choose the answer (1-4) that most appropriately indicates the meaning of the underlined word (VI) in its context.

1. plan
2. discuss
3. practice
4. conclude

(VII) Which aspect of lawsuits in America is the author trying to emphasize most in this text? Choose the answer that most appropriately indicates the author's point of view.

1. There are too many expensive settlements out of court.
2. Lawyers are earning too much money too easily.
3. Judges have to decide too many legal cases.
4. People find it too easy to hold others legally responsible.

【解答】 [A] (a) 7 (b) 5 (c) 2 (d) 6 (e) 3 (f) 1 (g) 4
[B] (I) 1 (II) 2 (III) 1 (IV) 3 (V) 3 (VI) 4 (VII) 4

【解説】

- ・ [A] は空所と選択肢の数が同じなので、分かりにくい空所は後回しにすればよいが、時間との勝負なので、判断力と思い切りの良さが求められる。
- ・ [B] の (V) routine=日課、決まってすること、いつものこと (VI) strike a deal は「取引を結ぶ、成立させる」で conclude に同じ意味があるが、むしろ知っている人が例外だろう。結果的に合えばそれでよし、もし落としても、他で確実に得点できればそれで良い。
- (VII) は選択肢の 1 がやや紛らわしい程度。正解 4 の hold others (to be) legally responsible=consider others (to be) legally responsible は仮に知らなくても見当がつくはず。

※難問と言えるのは [B] の (VI) だけである。求められるのは速読力と手際よい問題処理能力。この学部を私大の最難関に押し上げている最大の理由のひとつは、実は80分という10分短い試験時間である。そのことにどれだけの意味があるかは別。対策は英文を大量に、しかも正確に読んで、文脈把握力を付けることである。短い段落に空所や下線部が散りばめられているので、パラリーなどは言うまでもなく、スキミングやスキニングの出る幕もあまりないが、どうしても時間の足りないタイプの人には、設問の前後の必要最少限の部分を読むだけで高い正答率を出せるようになるのであれば、それはひとつの解き方である。

[語句と構文の補足]

- ・ 第四段落 1～2 行目 I daresay [I dare say]: 私はあえて言う→おそらく、たぶん
- ・ 第八段落第一センテンス Combined with the idea that lawsuits are a quick way to a fortune is the uniquely American notion that no matter what happens, ... =The uniquely American notion that no matter what happens, ... is combined with the idea that lawsuits are a quick way to a fortune. という受け身の文の combined 以下を前に出した倒置。「S+be+過去分詞...」→「過去分詞...+be+S」つまり「S+be+C」→「C+be+S」に準じる倒置の形。
- ・ 第十段落 6 行目 on top は on top of ~「～に加えて」を覚えておきたい。

【全訳】私の英国の友人が、最近、アメリカの会社の顧問弁護士たちに、ある訴訟の証人になってほしいと頼まれた。彼らは、主任弁護士と助手2人を飛行機でロンドンへ行かせたいと言った。「私が飛行機でニューヨークへ行くほうが安上がりじゃありませんか」と友人は提案した。「そのとおりです」ためらうことなく返事が返ってきた。「でも費用はクライアントに請求できるんです」

いかにもアメリカの法律家らしい考え方だとわかる。多くのアメリカの弁護士が、依頼者に1時間当たり150ドル請求しても十分に正当化される、たいへんに価値のある仕事をしていることは間違いない。しかし問題は弁護士の数が多すぎることだ。事実、米国には、世界の他の国の弁護士を全員合わせたよりも多くの弁護士がいる。その数は80万に近い。

もちろん、弁護士には仕事が必要だ。ほとんどの州で弁護士は広告宣伝をすることを認められていて、多くの弁護士が熱心にそうしている。テレビを見ていると必ず弁護士の登場するコマーシャルを見ることになり、次のような言葉を聞かされる。「こんにちには、ベント・アンド・オイリー法律事務所のヴィニー・スリックです。仕事に怪我をしたとか、交通事故に会ったとか、あるいは、ただ臨時の収入が欲しいと思っただけでも、私の所にお出でください。訴える相手を見つけてさしあげます」

よく知られているように、アメリカ人は帽子を落としたというような些細なことで訴える。事実、おそらく誰かがどこかで、帽子を落としたことで訴えて、それによって被った苦痛と被害に対して2万ドルを勝ち取ったことがあるだろう。どんな理由であれ、何か具合の悪いことがあったときはいつでも、もし自分が少しでも関わっていたら、大金を受け取って当然という意識である。

こうした意識が端的に表れていたのは、カリフォルニア州リッチモンドの化学工場

で爆発事故が起こり、町中にガスが充満したときだった。数時間以内に弁護士やその代理人が200人現れると、名刺を配り、人々に地元の病院に行くことを勧めた。病院の救急処置室に列をなした、とても健康そうに見える2万人の人々のうち、入院することになったの20人にすぎなかった。被害が証明された数はわずかだったにもかかわらず、町の住民7万人が訴訟を起こした。会社は1億8000万ドルの和解金の支払いに応じた。この中から、弁護士たちは4000万ドルを手に入れたのである。

アメリカでは毎年9,000万件以上の訴訟があり、これは2,5人に1件に相当するが、その多くは野心的とでも言えるものだ。例えば、ワシントン州では心臓の持病を持つ男性が地元の乳業会社を訴えたが、牛乳のカートンにコレステロールについての警告が記載されていなかったというのがその理由だった。一方、カリフォルニアの女性もウォルト・ディズニー社を誘っていたが、自分の孫たちが、ディズニーランドの駐車場でディズニーのキャラクターたちが衣装を脱いでいるところを偶然目撃してショックを受けたというのがその理由だった。ミッキーマウスが実は縫いぐるみを着た生身の人間だったという発見は、どうやら幼い子供たちには耐えられないことだったらしい。

その訴訟は却下されたが、他のケースでは、人々は実際に被ったかもしれない苦痛や損失とはまったく釣り合いがとれないほどの大金を勝ち取ってきたのである。最近、ミルウォーキーのビール醸造会社の幹部が、あるテレビ番組について女性の同僚に対して下品なジョークを言ったところ、女性は彼がセクシャルハラスメントをしたと報告した。ビール会社がそれに答えてその男性を解雇すると、男性はビール会社を訴えてそれに応じた。解雇されたその幹部は、同情的な陪審によって、年収のおよそ40万倍に当たる2,660万ドルの賠償金を与えられた。

訴訟は大金を手に入れる手っ取り早い方法だという考えと結びついているのは、何が起ころうと、誰か他の人間に責任があるに違いないというアメリカ人特有の観念である。だから、例えば、あなたが1日80本のタバコを50年間吸い続けてとうとうガンになったとすると、それは自分自身以外の他の全員のせいに違いなく、だから自分が吸っているタバコのメーカーだけでなく、卸売業者や小売業者なども訴えることになる。アメリカの法制度の最も変わった特徴の一つは、申し立てられた訴えにほんのわずかでも関わりのある個人や企業を告訴して、巨額の賠償金を得ることを認めていることである。

したがって、多くの場合、企業にとっては、問題を裁判沙汰にするよりも法廷外で和解するほうが安上がりである。雨の日にデパートに入ろうとして、滑って転んだところ、告訴しないという同意書に署名すればすぐに2,500ドルの和解金を支払うという話を持ちかけられた女性がいる。彼女は署名に応じた。

このようなことで社会にかかるコストは膨大である――少なくとも年に数十億ドルはかかる。ニューヨーク市だけで、「滑って転んだ」的な賠償要求の和解に年に2億ドルを費やしている。こうした歯止めの効かなくなった法制度に関するテレビドキュメンタリーによると、製造物責任コストが高騰したために、米国の消費者たちは自分が買う車一台に対して500ドル、心臓ペースメーカーに対して300ドルを、必要以上に支払っていて、散髪に対してさえ少し余分に支払っている。私も始終そういう目に合っているが、みっともない切り方をされて嘆き悲しむ客が、理容師を訴えて勝訴したことがあるからだ。

こうした例を挙げているうちに、当然のことながら、私はある考えを思いついた。タバコを80本吸って、高コレステロールのミルクを飲みながら滑って転び、ディズニーランドの駐車場で通りかかった女性にテレビ番組のジョークを言ってから、ヴェニー・スリックに電話して、取り引きができるかどうかを確かめてみようというものだ。25億ドル以下で和解するつもりはないが、それも私の最新の散髪についてはまだ話し合いを始めてもいない状態でのことである。